

# 研究 Report



No. 6 令和4年1月 池袋本町小学校

昨年12月14日(火)に3年2組で6回目の研究授業を行いました。今回の授業では、親切にしたり、されたりするロールプレイを通し、進んで相手に親切にしようとする実践意欲と態度を育てることを目標として設定しました。3年生には親切の良さを感じていたり、実際に相手のことを考えて親切にしたりしている児童が多くいます。しかし、誰にでも、いつでも親切にできるかという点はまだ難しい様子もあります。相手が何に困っているのかわからなかったり、自分がその時忙しかったり、声をかけるのが恥ずかしかったりと様々な葛藤が見られます。

そこで今回の研究授業では、「こまったさん」と「親切チャレンジャー」になってロールプレイを行い、自分達にはどんな親切ができるのか、また親切にしたりされたりするとどんな気持ちになるのか、友達はどんな考えをもっているのか伝え合いました。それを踏まえて、今までの自分はどうか改めて考えました。

- 1 講師 国分寺市教育委員会 指導主事 野村 宏行 先生
- 2 主題名 「こまっている人がいたら」(B-6 [親切, 思いやり])
- 3 教材名 「みんながくらしやすい町」
- 4 授業内容



## 【本時の目標】

相手のことを思いやり、進んで親切にすることの良さや自分はどのようなことができるかを考えさせ、親切な行為を自ら行おうという実践意欲と態度を育てる。

## 【主な学習活動】

### 導入

教科書の「くらしやすい町」の様子を見て親切にすることの良さや親切にできない時の気持ちや状況を確認しました。



### 展開前段



「こまったさんと親切チャレンジャー」のロールプレイを行いました。  
＜こまったさん＞は、お題に合わせて困っている人を演じ、それに対して＜親切チャレンジャー＞は自分なりに親切に接してみました。ロールプレイを見ている人は＜親切アドバイザー＞として自分だったらどう行動するか考えたり、チャレンジャーにアドバイスをしたりしました。  
ロールプレイの後、それぞれ感じたことや気付いたことを伝え合いました。

### 展開後段

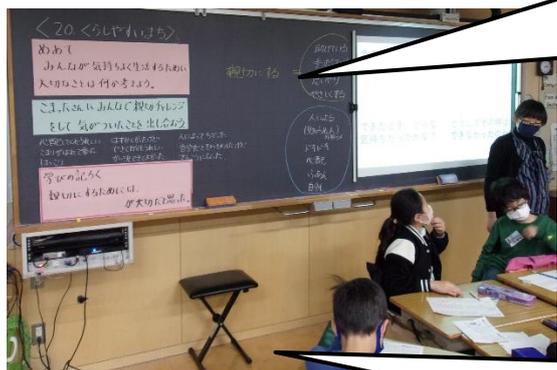
ロールプレイをした体験と、クラスの友達の親切に関するアンケートから、今までの自分はどうか改めてふりかえりました。



「ロールプレイをして気がついたこと」  
こまったさん: 親切にされて嬉しい。困り感が晴れて楽になった。  
チャレンジャー: 恥ずかしかったけど、親切にすることができて自分も嬉しい。

解決してよかった。ほっとした。

アドバイザー: 自分がしようと思った行動とは違った。



「親切にするために大切なことは何だろう」の問いには  
・相手を思いやって考えるとよいと思った。  
・分からないときは「どうしたの」と聞いてみるとよい。  
・まずは声をかけてみようと思った。 などの考えが出ました。